

専修大学図書館ボランティア Compass によるビブリオバトル特集

ビブリオバトル開催！

- 開催日 2021年11月3日(水)
- 配信会場 神田10号館 Knowledge Base
- 時間 13:10~14:40

文化の日の11月3日(水)、図書館ボランティア Compass によるビブリオバトルがホームカミングデーの企画のひとつとして開催されました。ホームカミングデーとは卒業生やその関係者を母校に招くイベントのことです。例年は鳳祭と時期を合わせ生田キャンパスで行われていましたが、今年はコロナ禍のため単独の日程でオンライン開催となりました。Compass がホームカミングデーで活動を行うのは初めての試みです。図書館ボランティアの活動を卒業生や保護者の方々に伝えたいという思いから始まりました。また、この企画を実現するにあたり、保護者の会である育友会から多大なご理解とご支援をいただきました。

当日は、Compass のメンバーから6名の代表が神田キャンパス10号館にある Knowledge Base に集まり、ライブ配信を行いました。コロナ禍により活動内容に制限のある厳しい状況でしたが、オンラインのメリットを生かし、多くの方々に視聴していただくことができ大盛況のうちに終了いたしました。

当日の様子は YouTube の専修大学図書館チャンネルで公開しています(QRコード参照)。



ビブリオバトルで紹介された本は、全て図書館で所蔵しています！



ビブリオバトルとは？

ビブリオバトルは、誰でも開催できる本の紹介コミュニケーションゲームです。「人を通して本を知る。本を通して人を知る」をキャッチコピーに全国に広がり、小中高校、大学、一般企業の研修・勉強会、図書館、書店、サークル、カフェ、家族の団楽などで広く活用されています！

ビブリオバトル公式ルール

1. 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
2. 順番に一人5分間で本を紹介する。
3. それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2~3分行う。
4. 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。



知的書評合戦ビブリオバトル公式サイトより

チャンプ本

『文豪たちの友情』 人間科学部 3年・藤本朱音さん紹介

発表内容概要

みなさんには、思い出深い友人やいつまでも大切にしたいと思う友人はいるでしょうか。この本は4章に分かれ、近代の文豪たち2人1組の友情を作家たちの作品や手紙をもとに紹介している本です。この本の魅力は2つあり、1つ目はとところどころにある著者の石井さんの突っ込みです。2つ目は表紙や挿絵、文章を読んでみて「ああこの出来事なんだ」としみじみと情景や文豪たちの気持ちに寄り添うことができることです。著者はこの本について、「かつてこの日本という国で生きていた、今はもういない文豪たちの『死後の友人』になった気持ちで書いたため手紙である」としています。この本を通じ、文豪たちに近づくこと、その友人になることができます。また、ふと自分の懐かしい友情や今ある縁を想うことができます。この文庫版はももとの単行本に第4章が追加されているので、単行本を読んだことがある人ももう1度読んでいただきたいと思います。



石井千湖『文豪たちの友情』
(新潮文庫刊)

発表後のディスカッション

- Q 著者の突っ込みのうちで、一番笑った部分はありますか？
- A 中原中也の元彼女が小林秀雄と同棲することになり、秀雄の部屋へ荷物を持ってきた中也に、秀雄が部屋へ上がれと誘うと中也が部屋へ上がってしまう場面です。ここで、「引き留めるほうもどうかしているが、上がるほうもどうかしている。」という著者の突っ込みに「確かにそれは気まずくない？」と思い、声をあげて笑ってしまいました。
- Q 文豪たちの実話のエピソードが書かれているのですか？
- A 文豪たちの日記や、やりとりしていた手紙、没後に座談会が開かれた時に出てきた逸話を集めてつくられたので、基本的にはノンフィクションなのだと思います。
- Q お気に入りの章はありますか？
- A 第2章の早すぎる別れをテーマにした章です。夭折した文豪と友人たちの友情がお気に入りです。石川啄木と金田一京助、国木田独歩と田山花袋の友人たちの関係性がよかったです。

チャンプ本受賞のコメント

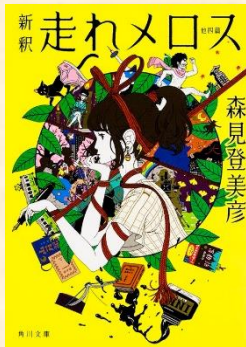
今回紹介した「文豪たちの友情」がチャンプ本に選ばれました。みなさんに読んでみたいと思っていただくことができ、この本の魅力を伝えることができたのかなと嬉しく思います。この本で私が紹介したのはほんの少して、自分が印象に残った文豪たちの話しかお伝えできていません。他に何組も登場するので、きっとみなさんが好きだなと思っている文豪たちも書かれているはず。また私自身、あまり現代日本文学を読んでいないため、作品だけ知っていて、この本で初めて名前を知った文豪もいます。そのように文豪たちの作品をすごく好きだよという人も、あまり読んだことがないという人も楽しめる、入門書にもなる本だと思います。私の見つけられなかった魅力がまだあると思うので、みなさんに読んでもらい、この本について一緒に話がしたいです。ありがとうございました。



『新釈 走れメロス 他四篇』 経済学部4年・対馬正騎さん紹介



私が紹介する、新釈走れメロス。どういう所が新しい解釈なのかを説明していきます。
京都の大学生芽野史郎(原作でいう所のメロス)は、世にも破廉恥な刑に瀕し、人質となった親友を見捨てるために、全力で京都を疾走します。原作の「親友との約束を守るため」ではなく「見捨てるため」に走る。これは内容がガラッと変わる新しい解釈ではないでしょうか。ここで、みなさんの中に2つの疑問が出てくるのではないのでしょうか?「原作を知らない面白くないのでは?」ということです。大丈夫です。この本では「走れメロス」他、有名な文学作品を基にした4篇が収録されています。私自身この本を読むまで知らなかった作品もありますが、興味深く読むことができました。また、「コミカルな話で読みごたえないのでは?」と思われる方がいるかもしれません。それも大丈夫です。表現が秀逸で、面白い場面がたくさん出てきますので、読みごたえも十分あると思います。



『新釈 走れメロス 他四篇』 森見 登美彦 KADOKAWA/角川文庫

『後宮の鳥』 文学部3年・小熊由樹さん紹介



私は本を選ぶときは表紙の絵を見て決めており、ミステリアスな黒い服の女の子に惹かれてこの本を選びました。
主人公は後宮の妃の寿雪(じゅせつ)という少女です。彼女は妃でありながら夜伽をすることのない鳥妃(うひ)と呼ばれる特別な妃で、不思議な術を使って自殺から偽物探しまで引き受けてくれるという謎の存在でした。物語の中で寿雪と皇帝の高峻(こうしゅん)の2人が出会うのですが、この出会いが寿雪の運命を変えることになり、2人の生きている時代の世界をも変えてしまうような出来事の始まりとなります。物語が進むにつれて変わっていく2人の関係性の変化に注目して読んで頂きたいです。また、ずっと1人でいた寿雪が事件を解決していくなかで様々な人々に触れて心を開いていくのですが、不器用ながらも仲間との時間を大切にしようとする寿雪の姿も見どころの1つです。この本はシリーズものです。キーワードである『鳥妃』についての秘密がシリーズ内にちりばめられていますので、ぜひ続きも読んで下さい。

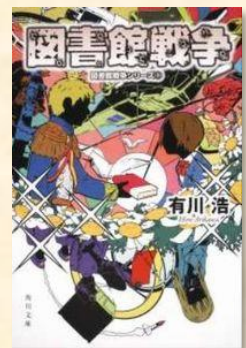


白川紺子 『後宮の鳥』 (集英社オレンジ文庫)

『図書館戦争』 人間科学部3年・藤井菜々海さん紹介



この作品の世界では公序良俗を乱し、人権を侵害する表現を取り締まる目的で「メディア良化法」という法律が制定されます。また、「メディア良化委員会」という組織によって、メディアの検閲が行われていきます。委員会に対抗し、「図書隊」という部隊が作られ、ここに新しく入隊してくる笠原郁という女の子が主人公です。
魅力の1つ目は、現存する図書館法に新たな章が追加成立しているなど、設定がとても細かく作りこまれている点です。作品の中でこれらの法律をもとに様々な行為が行われていきます。2つ目は、人間味溢れる素敵なキャラクターです。とにかく真っ直ぐでいるんなことに愚直に取り組んでいく笠原郁と、その郁を優しさゆえの厳しさで見守っていく教官の堂上など、魅力的なキャラクターがたくさん登場します。3つ目は、キャラクターが織りなすフツと笑ってしまう会話劇やハツとするような名言の数々です。特に私が好きな言葉は「正論は正しい、だが正論を武器にする奴は正しくない。お前が使ってるのはどっちだ?」という堂上の言葉です。



この作品は漫画や映画などでも楽しむことができますので、ぜひこの世界観を味わってみて下さい。

『図書館戦争』 有川 浩 KADOKAWA

『悪童日記』

法学部2年・秦未来子さん紹介



タイトルが“悪童”とついているのでいたずらっ子の日記かなと思いましたが、この本は戦争を描いた物語です。
戦渦の中、双子の少年が小さな町に住んでいる悪評高いおばあさんのもとに疎開します。ここで様々な恐ろしい場面に出会い心を閉ざしていくのですが、そんな中で生き抜こうとする少年たちは、勉学のため日記を書くことにします。その際、少年たちは自分が見ている景色や感情を一切入れず、物象や人間や自分自身の描写、つまり“事実の忠実な描写だけにとどめる”といったルールで日記を書いています。最初はどのようにして感情を書かないのだろうかと思っていましたが、実際に最後まで読み終えてみると、感情がないということこそが、戦争の悲惨さや不条理さを非常に具体的に表していると気がきました。そして、双子の少年という子供の純真無垢な目線から描かれていることで、戦争の愚かさや戦争をしてはいけないという事をありありと伝えてくれる、そんな1冊です。



戦争の話は硬そうで手が出しづらいという方は、こちらの悪童日記を手始めに戦争について考えてみてはいかがでしょうか。

アゴタ・クリストフ著、堀茂樹訳
『悪童日記』
(早川書房/ハヤカワ epi 文庫)

『家庭教室』

法学部2年・向井田彩音さん紹介



主人公は灰原巧という大学2年生です。彼は塾講師をしていましたが、塾との契約に違反し、退職に追い込まれます。この物語はそんな彼のもとに家庭教師の依頼が舞い込むところから始まります。担当する生徒たちは様々な問題を抱えていますが、彼はその問題を探偵のように解決していきます。
早く大人になりたいと話す女の子に「子供にも大人のような部分があって、大人にも子供の部分がある。子供と大人の間はグラデーションだと思うよ。」と話すところがありますが、私たちも実際そうではないでしょうか。私はこの作品を通して、自分の進路を考えることも、大人になる一歩なのではないかと思いました。私自身も就職活動を控えていますが、登場した生徒たちのように自分の将来を一生懸命考えて、少しでも大人に近づいていけたらいいなと思っています。

子供の頃、大人ってどんな風に見えていたんだろうなと思いつききっかけとして、いま大学生のあなたに、子供と大人の間にいるあなたに読んでほしい1冊です。



『家庭教室』 伊東 歌詞太郎
KADOKAWA

参加された育友会本部役員の方々から感想をいただきました!

この度のビブリオバトルはコロナ禍で様々な活動が制限される状況での企画となり、発表者の方々、図書館関係者の皆様、本当にご苦労様でした。この企画への参加を大変楽しみにしていました。人に本を薦めるには自分がその本を非常に好きだとか、何か強く感じる点がないと難しいものです。発表では6人6様の本に対する熱い想いが伝わってきて感激しました。これからも図書館運営に携わり、よりよい本を多くの人に紹介していただきたい。お引きいただきありがとうございました。

(副会長 江尻 征志 様)

5分間の限られた時間で本を紹介することはとても大変ですが、6名のみなさんには共感や反感などの想いを自分の言葉で相手に伝える非常によい機会でした。また、論理的な物事の考え方や思考を試されるトレーニングになったかと思えます。自分の想いをきちんと解釈して話すことは、これからの長い人生の様々な場面で要求されます。そういう意味では、今回のビブリオバトルという形の中で自分の思いの丈を伝えられたことはよかったと改めて思います。また機会があれば参加したいと思います。

(副会長 小海 祐資 様)

専修大学図書館ボランティア Compass

みなさんにとって利用しやすい図書館になることを目指し、「業務サポート」「展示」「館内整備」の3班に分かれ、現在60名の学生たちが活動しています。

<新規メンバー募集中>

Compass では一緒に活動するメンバーを募集しています! 学部・学年、所属キャンパスは問いません。興味のある方は各図書館カウンターまたは E-mail (QR コード参照) からお気軽にお問い合わせ下さい。

